

An aerial photograph of a dense green forest. A river flows through the landscape, and several roads or paths are visible. A large yellow oval is superimposed on the upper part of the image, containing the title text.

まじろ
小代
ふるさとガイド

おじろ ガイドマップ

私たちのふるさと小代にはたくさんの「たからもの」があります。この「たからもの」は私たちの先祖が大切に守り育ててきたものです。私たちもこの「たからもの」を大切に、さらにたくさんの「たからもの」を見つけて未来へ引き継いでいきましょう。わからないことがあったら高齢者の方に聞いてみましょう。



- 凡例
- 黄色の道…広い道
(国・県道など)
 - 白色の道…少し狭い道
(県・町道など)
 - 灰色の道…細い道
(林道・登山道など)

まじろ ガイドマップ

鍛冶屋・佐坊・東垣・新屋・熱田



かんのんどう あつた
観音堂 (熱田)

きじし くようとう
木地師の供養塔

いち さか
一の坂

やま かみ
山の神

うおどめ たき
魚留の滝

まぼろしの滝
さ ぼろはったんだき
佐坊八反滝

町指定 たかまるやま
高丸山のシナのき

み たき
三ッ滝

町指定 はつたんだき
八反滝

町指定 とちのきのくんせいち
とちのきの群生地

こりんどう
五輪塔

ミカタスノーパーク
スキー場

とちのき村

あつた
熱田

あつた じんじや
熱田神社

まじろ 旧小代小学校・観音堂
あつた ぶんこうこうしや
熱田分校校舎

たいとうこうさんあと
大東鉱山跡

たいほ さつやまだいじいん
大菩薩山大慈院
かんのん じ あとち
観音寺跡地

町指定 モリアオガエルのせいそくち
モリアオガエルの生息地

おなき ぶち
オナキ淵 (夜泣淵)

ろくたいじ ぞう
六体地藏

にんや
新屋

あつた じんじや あたごやま じやとう
熱田神社・愛宕山 (除夜燈)
たいにちとう
大目堂

おじろそんどう ろんげんびょう
小代村道路元標

町指定 おじろじんじや きよほくぐん
小代神社の巨木群

おじろじんじや
小代神社
せいがんのりつぞう せんじやくんのりぞう
(聖観音立像・千手観音立像)

あきおか
秋岡

かんのんどう 古墳
観音堂・古墳

りゅうせんじ
龍泉寺
(三界萬霊塔)

町指定 やまな せんごう ざぞう
山名禅高座像

えいたい きしんじや
永代寄進状

きりしおなんしやうがっこうあと
旧小南小学校跡

あみたどう
阿弥陀堂
(阿弥陀如来座像)

あみたどう
阿弥陀堂
あらたまじんじや
荒霊神社

さぼう
佐坊

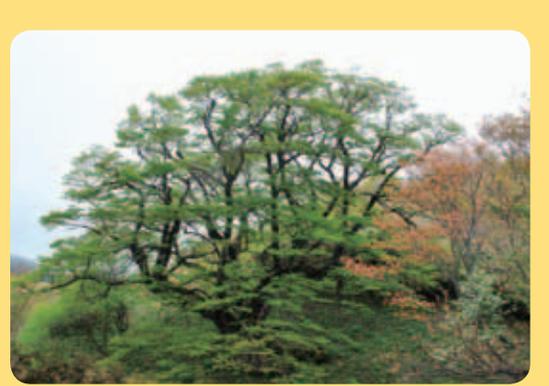
かねつきどう
鐘突堂

あらたまじんじや
荒霊神社
(大目堂)

ひがしがき
東垣

あらじんじや
荒神社

かじや
鍛冶屋



たかまるやま
高丸山のシナのき

まじろ ガイドマップ

茅野・貫田・平野・実山・忠宮・
久須部・野間谷・大谷・城山



あまこいせつこく
雨乞石刻

いとくけんしやうひ
遺徳顕彰碑

あまこいせつこく
雨乞石刻

かやの
茅野

あらたまじんじや
荒霊神社

ひらの
平野

いなりじんじや
稲荷神社

くろみんじ
光明寺・六体地藏
くまのじんじや
熊野神社

だいしやうやほか
大庄屋墓
あみだそん
阿弥陀尊

ほうまういんとう
宝篋印塔
さんたき
三浦・三おう穴

のまたに
野間谷

のまたにじんじや
野間谷神社
やくしどう
薬師堂

さねやま
実山
さねやまじやうし
実山城址

せきひ
石碑
ごりんとう
五輪塔

おじろさま
お地藏様

あらみたまじんじや
荒御霊神社

おじろさま
お地藏様

しらかみじんじやあと
白髪神社跡碑
おじろドーム
宮の前遺跡

けしやうじそ
お化粧地藏
はしくようとう
橋供養塔

めい号の碑
そらすからうす
添水唐臼

じそらぼさつ
地藏菩薩

おおたに
大谷

だいたいじそら
大体地藏

じそらぼさつ
地藏菩薩

おじろちやうがっこう
小代中学校

おじろしょうがっこう
小代小学校

ただのみや
忠宮

ただのみや
忠宮

おじろさま
お地藏様

めい号の碑

じそらぼさつ
地藏菩薩

はちまんじんじや
八幡神社

やくしどう
薬師堂

あんめいじんじや
安明神社

だいたいじそら
大体地藏

じそらぼさつ
地藏菩薩

かんのおんどう
観音堂

おおたにいなりじんじや
大谷稲荷神社

しるやまじやう
城山城

れきしこうえん
歴史公園

ただのみや
忠宮

むらあと
いわつき村跡

いっせきいちじく
一石一字供養塔

じそらぼさつ
地藏菩薩

じそらぼさつ
地藏菩薩

はちまんじんじや
八幡神社

やくしどう
薬師堂

なさが古墳

ねんがんじ
念願寺

だいたいじそら
大体地藏

じそらぼさつ
地藏菩薩

かんのおんどう
観音堂

おおたにいなりじんじや
大谷稲荷神社

しるやまじやう
城山城

れきしこうえん
歴史公園

ただのみや
忠宮

むらあと
いわつき村跡

いっせきいちじく
一石一字供養塔

じそらぼさつ
地藏菩薩

じそらぼさつ
地藏菩薩

はちまんじんじや
八幡神社

やくしどう
薬師堂

なさが古墳

こうざんあと
鉱山跡

だいたいじそら
大体地藏

じそらぼさつ
地藏菩薩

かんのおんどう
観音堂

おおたにいなりじんじや
大谷稲荷神社

しるやまじやう
城山城

れきしこうえん
歴史公園

ただのみや
忠宮

むらあと
いわつき村跡

いっせきいちじく
一石一字供養塔

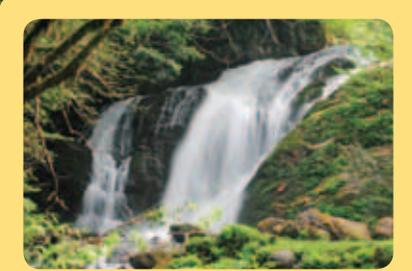
じそらぼさつ
地藏菩薩

じそらぼさつ
地藏菩薩

はちまんじんじや
八幡神社

やくしどう
薬師堂

なさが古墳



かなめ たき
要の滝



やま たなだ
うへ山の棚田

くすべはなしょうふ
久須部花菖蒲

くすべこうざんせいれんしよあと
久須部鉱山精錬所跡

くすべ
久須部

おおやますみじんじや
大山祇神社

くすべこうざんあと
久須部鉱山跡

さんだん たき
三段の滝

かなめ たき
要の滝

しまち
嶋地

小代のむかし話

小代には人々が語り継いできた昔話があります。昔話には先祖の思いが詰まっています。その思いを感じとりましょう。

こながたわ でんせつ 小長迎の伝説

大谷の西にある小長迎には昔、十数戸の家がありました。この村は都落ちした藤原氏が開いたとされ、木工品の製作をしながら少しずつ村を大きくしていきました。また、戦国時代には山名四天王の一人といわれた太田垣氏が、その居城である竹田城（朝来市）を追われたときに、この地にやってきたと言われていました。昭和43（1968）年頃から生活に便利な大谷への移転が続き、廃村となりました。



こながたわ おお けんしてい
小長迎の大トチ（県指定）

あさくらたかきよ うちくらどう 朝倉高きと内倉洞

治承・寿永の乱（源平の戦い）で平家方だった朝倉高清らは、平家の敗戦によって養父市朝倉の居館を捨て一時身を隠すため、実山の奥地にある内倉洞に隠れ住みました。ある日、源頼朝の家来が実山に逃げた平家勢力の残党を探しに来たところ、見つかってしまい捕えられて鎌倉に送られました。

その頃、関東では大きな白イノシシが出て暴れまわり被害が大きかったので退治しようとしたのですが、けが人が出るばかりで被害は大きくなるばかりでした。どうにか良い方法はないかと占い師に見てもらうと、西の方に稀なる勇士が深い山に隠れているというお告げがありました。高きは体が大きく力が



うちくらどう
内倉洞

強かったので高きがその人物だろうと、誰も引けないような大きな固い弓を渡すと百発百中の優れた腕前でした。そこで、頼朝は高きに白イノシシ退治を命じました。養父市に帰って身を浄めた高きは白イノシシ退治に向かい、見事に白イノシシを退治しました。高きはこの功績により頼朝から但馬の領地の支配を許されました。

しかし、承久の乱（1221年）では朝廷側について敗れたため、勢力を失い室町時代には但馬守護の山名氏に仕え、戦国期には織田の勢力により滅ぼされてしまいます。

一方、但馬朝倉氏から分かれ越前（今の福井県）に移った系統である越前朝倉氏は戦国時代には越前国の大名となりました。

はしば とよとみ ひでよし おじろ ぜ 羽柴（豊臣）秀吉の小代攻め

戦国時代、全国を統一するために日本各地で戦いを繰り返していた織田信長は羽柴秀吉に中国攻めを命令しました。当時、中国地方は毛利輝元の勢力圏であり、但馬もまた毛利の勢力圏内でした。天正5（1577）年に羽柴ひでよしの弟の秀長により竹田城（朝来市）が落城しました。

その際、竹田城主であった太田垣氏が小代に入り、後の小代一揆（第1次）と呼ばれるひでよしの戦いの指揮をとったと言われてい

ます。小代は但馬で最後まで織田勢力に抵抗していましたが天正9（1581）年、ついに秀吉が攻めてきました。小代の地侍は城山城を拠点に抵抗し軍勢をひきつれましたが、秀吉は小代から外へとつながる道をすべて塞ぎ、逃げることをできないようにした後、小代の勢力を徹底的に攻撃しました。山の奥に逃げ込んだ者もいましたが、4～5日かけて山狩りがおこなわれ全員見つけ出され捕まり、小代は織田勢力に完全に支配されました。



しろやまじょう
城山城

小代のたから 但馬牛

私たちの小代には先祖が残したとても大切なたからものがたくさんあります。その中でも但馬牛は小代だけでなく日本を代表する牛です。

いつから但馬牛がいたの？

但馬牛の歴史は古く『続日本書紀』（797年）

には

- 一、出雲牛 農耕に的す。
 - 二、五島牛 農役用に的す。
 - 三、但馬牛 耕耘、輓用、食用に的す。
- 但馬は古来、牛を愛育し、良畜を産す。

とあります。この頃から但馬牛は働きもので、しかも美味しいということが知られていました。また、それは但馬の人が牛を大切に育てていたおかげであるということが書かれています。



「国牛十図」河東牧童 鎌倉時代
国立国会図書館蔵

前田周助と周助蔓

寛政10（1798）年、但馬牛の将来を決める人物が生まれました。彼の名は前田周助、但馬牛の改良によって地域を少しでも豊かにするために一生を捧げました。

周助は小さいころから牛が大好きで少年時代には牛と共に野山をかけめぐっていました。成長してからも牛のことになると見境がなく、ある時、村岡に良い雌牛がいたので多額の借金をして手に入れました。

周助はこの雌牛をととても大切に育て、また繁殖についても研究を重ねた結果、この雌牛は優秀な子牛を産むようになり、優秀な牛の系統である「蔓」とされ「周助蔓」と呼ばれるようになりました。しかし、周助が明治5（1872）年に亡くなってから、昭和16（1941）年には周助蔓の事実上の直系は絶えており、名声のみ残って内容はともなっていませんでした。



田尻号顕彰碑と前田周助翁顕彰碑

但馬牛の危機

明治になると新政府の方針によって、小柄な但馬牛の体格を大きくするため、外国産の牛を掛け合わせる事となりました。明治39（1906）年には但馬牛と外国産の牛を掛け合わせることが盛んになりました。体は大きくなるなどいいこともありましたが、骨が太くなったり、肉質が悪くなる、また、大きくなったせいで役用としては動きが鈍く小回りがきかなくなるなどの欠点が出てきたほか、飼料が多く必要となるなど、農家が次第に外国産の牛との交配を嫌うようになり明治42（1909）年以降はあまり行われなくなりました。

あつた蔓と田尻号

昭和16（1941）年頃から関係者によって新しい優秀な牛の系統である「蔓」を作ろうという動きが活発になりました。太平洋戦争などの影響で困難な時期もありましたが、昭和23（1948）年に「あつた蔓組合」が組織され、優秀な牛の繁殖にとりくみました。「あつた蔓」とは「周助蔓」と周助蔓から派生した「分かれ蔓」のうち、優秀な牛を選んで、それらを交配することにより新しい系統「あつた蔓」を作ろうとするものでした。「あつた」の名前は「あつた蔓」の基礎となった「あつ」が暮らしていた熱田にちなんでつけられました。

昭和26（1952）年に「あつた蔓」の基礎として雄牛1頭、雌牛7頭が選ばれました。その種雄牛として選ばれたのが「田尻」です。

「田尻」は昭和14（1939）年に貫田の田尻松蔵宅の母牛「ふく江」の4頭目の子牛として生まれました。生まれた年には「あつた蔓」の系統を残すために県の施設に買い取られ、昭和29（1955）年に老衰でなくなるまで約1500頭近い子牛を残しています。

平成24（2012）年全国和牛登録協会の調査では全国の黒毛和種の母牛の99.9%が「田尻」の血統を受け継いでおり、小代の人々の牛に対する愛情が、日本の和牛の基礎を築いたといえるでしょう。



但馬牛

小代の歴史

小代区には私たちの祖先が昔から住んでいた跡がたくさん残されています。昔の人々が生活していた場所はどんな場所だったのでしょうか。

縄文時代の遺跡

上ノ山遺跡では家の跡が発見されました。見つかった家の跡は全部で4棟分ありすべての住居の床に火をおこした跡があり、家の中で簡単な調理や暖をとっていたと考えられています。また、この付近からは表面に縄の跡をつける縄文土器と呼ばれる土器も出土しています。土器の造られた年代から、この住居跡は今から7000年前、縄文時代早期に生活していた人々のものだとなりました。そのほかに打製石斧と呼ばれる石を割って作った斧も出土しています。



上ノ山遺跡住居跡

この上ノ山遺跡の住居跡は昭和61(1986)年に発掘されたものです。山村広場造成工事の予定範囲であったため、今の場所に移設、保存され、平成5(1993)年に町指定史跡の指定を受けました。町内で住居跡を発掘し、当時のままの姿で見学できるのはこの場所だけです。

小代の鉱山・鉄山

小代区には金銀銅などが採れる鉱山が多くありました。しかし、埋蔵量が少なく昭和30年頃にはすべて閉山してしまいました。

また、鉄はカナ流しという方法で採取されており、小代区内でも小長迫、忠宮、鍛冶屋などにも鉱山に関係すると考えられる地名「カナクソ」「カナクソガシラ」「タガネ屋敷」などが残っており、鉱山や鉄山があったと考えられますが、どこに鉱山や鉄山があったのかは詳しくはわかっていません。



久須部鉱山の坑道入口

時代	われき 和暦	せいれき 西暦	おも 主な出来事
古代			人が住んでいた(上ノ山遺跡など) 古墳が造られるようになる(野田古墳、はじき口古墳など)
中世	天正5年 } 天正9年	1577 } 1581	多他神社(忠宮)などが建立 竜泉寺(秋岡)、大運寺(貫田)、福善寺(野間谷)など建立 小代にある鉱山から金・銀・銅や鉄が採掘される 織田勢力による小代攻め小代一揆(第1次)
近世	寛永19年 元文4年	1642 1739	城山から大谷、久須部が独立 光明寺(平野)、念願寺(城山)、大谷(極楽寺)が建立 小代一揆(第2次)
近代	明治	1869 1871 1875 1876 1876 1876 1880 1889 1893 1897 1898	小代村役場ができる 村岡町から豊岡町となる 小代校が光明寺を借りて開校 小代校、実山に新築移転、豊岡町は兵庫県に統合 秋岡学校が龍泉寺を借りて開校 広井学校、民家を借りて開校 小代小学校に改称、秋岡学校、広井学校を支校とする 七美郡小代村となる。秋岡小学校、広井小学校が独立する 七美郡、二方郡が合併し、美方郡となる 熱田分校が民家を借りて開校 小長迫分校が民家を借りて開校
	大正		電気がついた
	昭和	1945 1947 1948 1954 1955 1961 1967 1968 1969 1971 1975 1981	小長迫に雪崩発生、死者1名 小代中学校開校 浜坂高校美方分校開校 熱田、備に発電所ができる 小代村、射添村が合併し美方町となる 射添村が分離し、村岡町と統合する 小代小学校、名目だけ統合する 熱田で雪崩発生、死者1名 熱田分校廃校 熱田地区越冬住宅完成 小長迫区越冬住宅完成 浜坂高校美方分校閉校 ニュー小代スキー場、オープン
	平成	1983 1995 2005 2010 2012	奥八チスキー場オープン 阪神淡路大震災 美方町、村岡町、香住町が合併して香美町となる 山陰海岸ジオパークに認定される 「日本で最も美しい村」連合に加盟する。

学校名

学年

年 名前

—— 2015年3月発行 ——

編集：小代ふるさとガイド編集委員会

発行：香美町教育委員会

学校支援地域本部香美町実行委員会

香美町ふるさと教育推進委員会

